

足立区環境基金審査会

議事録

令和6年3月28日

【環境基金審査会】会議概要

会 議 名	足立区環境基金審査会				
事 務 局	環境部長・荒井 広幸、環境政策課長・加藤 鉄也				
開催年月日	令和6年3月28日(木)				
開催時間	14時00分から16時50分まで				
開催場所	足立区役所 1204会議室				
出席者 (※オンライン参加)	A	※B	※C	D	E
	F	G			
欠席者	H、I				
会議次第	別紙のとおり				
資 料	足立区環境基金審査会資料				
そ の 他					

(加藤鉄也 環境政策課長)

環境政策課長の加藤でございます。ただいまから足立区環境基金審査会を開催いたします。

今回も会場とオンラインを併用した会議となっております。

ご発言の際は、なるべくゆっくり、はっきりを意識していただきますようご協力をお願いします。

オンラインでご参加の委員の方がご意見、ご質問等ある場合は、挙手ボタンでお知らせください。会場参加の委員の方は挙手をいただき、進行いただく会長から指名いたします。

また今回の審査会では、ペーパーレス化を目的とし、配布資料を iPad で共有しています。お一人につき 2 台机上に置かせていただいております。1 台は資料確認用として、審査用の画面が表示されている iPad は評価入力用としてお使いください。ご不明な点がございましたら、職員が控えておりますのでお声がけお願いいたします。

それでは、A 会長、よろしく申し上げます。

(A 会長)

はい。

ただいまから足立区環境基金審査会を開会します。本日は、委員定数 9 人のところ、7 人出席しておりますので、会議が成立していることを報告いたします。会場参加が 5 人、オンライン参加が 2 人、欠席が 2 人です。

次に、議事録署名人の指名をさせていただきます。

会場にお越しいただいている D 委員と E 委員をお願いします。

それでは続いて次第の 3、資料の確認、会議公開規定の取扱いについて事務局からお願いします。

(加藤鉄也 環境政策課長)

それではまず、資料を確認します。事前に送付または iPad に共有した資料として、本日の次第、委員名簿、環境基金助成申請一覧、評価の考え方と採択の基準(案)、評価項目シート、申請書類 6 団体分がございます。

なお、開催通知には 8 件分の申請と記載をしておりましたが、その後申請者からの申し出により 2 件の申請が辞退となりました。そのため本日は 6 件分の申請について審査していただきます。

続いて、会議公開規定の取扱いについてご説明させていただきます。足立区環境基本条例の規定により、「審査会の会議は公開とするが、議決があったときは、非公開とすることができる。」となっております。

前回までの審査会では、申請内容を評価、審査することは、公開になじまないことや、公開とすることで申請者が傍聴する可能性も出てきてしまうことから、審査に関する部分は非公開とすることを決定させていただいております。今回の審査会においても引き続き審査は非公開とさせていただくということですのでよろしいかご確認をお願いしたいと思います。

(A 会長)

ただいま事務局から説明があったとおり、本審査会の公開、非公開について議決を取らせていただきます。事務局の提案としては、申請者のプレゼンテーションや質疑応答までは公開し、そ

の後の審査は非公開にするというご提案ですが、ご意見などございますか。

(異議なし)

それでは、審査の部分は非公開とさせていただきます。

続いて、審議の諮問について、事務局からお願いします。

(荒井広幸 環境部長)

はい。本来であれば区長から諮問申し上げるところではございますが、私の方から代読をさせていただき、諮問書をお渡しさせていただきます。

(諮問書 朗読)

よろしくお願いいたします。

(A 会長)

ただいま諮問をいただきましたので、今回は6件の申請について審査をしたいと思っております。

それでは次第の5、評価の考え方と採択の基準について、事務局から説明をお願いします。

(加藤鉄也 環境政策課長)

まず、評価方法について説明いたします。評価の考え方と採択の基準(案)をご覧ください。

iPadは資料フォルダ内の評価の考え方と採択の基準(案)をご覧ください。

申請はファーストステップ助成と一般助成に分かれます。受付番号1番から5番がファーストステップ助成、受付番号6が一般助成の申請でございます。ファーストステップは書類のみでの審査、一般助成はプレゼンテーションと質疑応答でございます。今回は区が設定する課題対応型部門への申請がございました。評価のポイントを記載いたしましたのでご確認ください。

続きまして、評価項目シートをご覧ください

ださい。

全8項目を、0から5までの6段階で評価をします。3以上の評価であればその審査項目は基準を満たしていると判断されます。評価項目の内6項目は共通で、2項目は部門ごとに異なります。評価コメント欄には、活動内容と活動経費の視点から、評価する、あるいは評価しない理由、または疑問点や条件を付けたいことなどのコメントをご入力ください。採択・不採択をご検討いただく際に使用します。

また審査は、会場でご参加の委員はiPadから入力を行っていただきます。

オンラインで参加の方は、事前にお知らせしたURLからアクセスの上、入力をお願いいたします。

次に採択について説明いたします。集計作業終了後、評価の集計結果とコメントをスクリーン上に公開します。その結果を踏まえ、各申請について1件ずつ議いただき、採択・不採択を決定していただきます。

採択の目安は全委員の合計が、6割以上、つまり平均が3以上の評価としますが、例えば5割以下の点数を付けた委員がいる場合など、評価にばらつきがある場合は協議のうえ採択、不採択を決定していただきます。また、活動の一部のみ認めること、助成金の用途を限定するなどの条件を付けるときは、皆様のコメントなどを考慮して、協議のうえ決定いただきたいと思います。

案件によっては、審査が難しいこともあるかもしれませんが、公費を使つての助成でございます。学識、区議会議員、区民それぞれのお立場や視点で審査をお願いいたします。

以上事務局案について説明いたしました。

(A 会長)

ありがとうございます。評価にあたっては、0点から5点までの6段階で評価するというございます。採択の目安としては平均3以上ということになります。採択してもよいという案件については、3以上の評価で進めてください。ただ、集計の結果バラつきが生じた場合は、協議の上決めていきたいと思ひます。評価、採択について、ご意見などございますか。

(異議なし)

それでは、評価と採択の基準は、事務局案のとおりで進めさせていただきます。

審査に移る前に一点確認をいたします。委員の皆様の中に、本日の申請者と利害関係のある方がいらっしゃいましたら、挙手をお願いします。

(挙手なし)

利害関係者なしと確認しました。

それでは、次第の6、ファーストステップ助成の書類審査に移ります。

iPadでご覧いただく方は申請書フォルダから該当の申請書を開いてください。ファーストステップ助成は書類だけで審査をします。申請が5件ございます。

それぞれについて意見交換を行いたいと思ひます。

【評価については非公開】

(A 会長)

続きまして、一般助成の審査です。事務局から申請者の入室のご案内をお願いいたします。

(申請者入室)

(A 会長)

それでは、申請内容について8分間程度でご説明をお願いします。2分前と終了のタイミングで事務局からアナウンスいたします。その後約10分で質疑応答をさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

(Adachi Plastic Upcycle 長谷川氏)

よろしくお願ひいたします。

Adachi Plastic Upcycleの長谷川と申します。今年度は、昨年度の拡充として申請させていただきました。活動の内容、昨年度の実績、活動目的と目指す姿、活動のプランの順番でご説明させていただきます。

まず、活動内容です。Adachi Plastic Upcycleについてお話しします。我々足立区のコーヒーショップ八重洲コーヒーに集まったメンバーで構成されています。お客様からの紹介でPrecious Plasticという活動を知り、地域の中で出たプラスチックごみを、地域の中で再生し、循環型社会を目指すPlastic Upcycleとしての活動をスタートしました。Precious Plasticについてですが、オランダのデイヴ・ハッケンス氏が発案したプロジェクトです。誰でも簡単にプラスチックごみを美しい製品に生まれ変わらせる機械を開発し、その作り方、工程を全て公開することで世界のアップサイクルの輪を広げることを目指しています。地域に根差したコミュニティ活動であり、家庭で出たプラスチックごみを集め、そのごみを専用の機械を利用して家具やコースター、アクセサリなどに再生させます。次に、昨年度の実績についてお話しさせていただきます。まず、ペットボトルキャップの回収から始めました。回収ボックスを設置してからすぐに10名程度の

方から100以上のペットボトルキャップが集まりました。現在では、45Lのゴミ袋が7袋ほど集まっています。一時的に中断していますが、またすぐに再開する予定です。

続いて、ワークショップについてです。八重洲珈琲にて、10回開催しました。月1回の開催と特別開催です。1回の参加人数は5名から10名でお子さんや20代から40代の年齢層の方に参加していただいた印象です。シャイニングスターさんでは、夏休みの出張ワークショップを行いました。こちらはバトントワリングのチームで、小学生から大学生が選手として在籍しており、選手とその父母、また講師を対象に行いました。次に、あやせぐるぐる博への出店の様子です。順番待ちができるくらい人気のワークショップでした。年齢層は30代から40代のご両親と一緒にお子さんが参加されている印象です。

SNSは、八重洲珈琲のインスタグラムで周知しました。フォロワーの人数からそちらで行った方が多くの方に知っていただけるのではないかとことから八重洲珈琲のアカウントを使用しました。今回の活動に関しては、アカウントを新しく立ち上げまして、そちらで発信する予定です。

次に、活動目的と目指す姿です。活動目的は、地域のコミュニティを作り、地域の子どもや若年層の環境問題の意識の醸成をします。二つ目は、再生プラスチックを利用した製品、鉢、皿、コーヒーフィルターホルダーを販売することにより、アップサイクルされたカッコいいプロダクトから若年層にむけてアップサイクルの魅力を伝えていきます。若年層が

集まりやすいスペースを作り、地域住民への指導を行っていきます。

現在使用している押出成形機を使ったプロダクト製作は、技術が必要であったり、使用する人によっては製作が難しいこともあるので、射出成型機を購入することによって、参加する年齢の幅をお年寄りから小さいお子さんまで楽しめるようにと考えております。

目指す姿は、地域で増えるプラスチックごみ、家庭や職場でできるものを集めて、我々が美しいものにして地域に戻すというコミュニティを目指して活動しております。

今後のプランですが、引き続き機械を使用して、集めたプラスチックごみを粉碎します。それを今年度申請させていただいた射出成型機に金型をつけて成型します。そうすると、より綺麗な製品ができてより多くの方に興味を持っていただけると考えます。

活動プランです。フェーズ1として機器の導入と金型のデザインと試作を行います。4月下旬に区内の園芸店や、珈琲豆の卸売業者、また八重洲珈琲のお客様からヒアリングを行い、プロダクトのデザインを開始します。6月から7月にデザインを決定し、7月中に発注先であるkiixさんでオペレーションを行うための研修を行います。7月から8月に金型の完成と、射出成型機の購入と設置、試作を行います。フェーズ2はワークショップへの導入と周知です。8月から来年の3月31日まで定期的にワークショップを行いながら、その様子をSNSで発信します。8月には、MKEシャイニングスターで出張ワークショップを行う予定です。フェーズ3では、福祉施設との

連携の準備を行います。既にお話していますが、生産量等詳細について相談させていただこうと考えております。

最後に、我々は今後も地域と一緒に循環型社会を目指していきますので、よろしくをお願いします。

(A 会長)

ありがとうございました。

ご質問等はございますか。ある方は挙手をお願いします。

C委員をお願いします。

(C 委員)

発表ありがとうございました。

フェーズ3で福祉関係に展開していくということでしたが、具体的にはどういったことを検討されていますか？

(Adachi Plastic Upcycle 長谷川氏)

具体的には、区内のあいのお福祉会さんと進めます。コロナをきっかけに利用者の方々と社会との接点が薄れてしまったというお話から、商店街やご家庭等に出向いてペットボトルキャップの回収を行っていただきます。そこから色分けと洗浄を行っていただいたものを我々が粉碎して成形するというのを考えています。

(C 委員)

そういった方の役割もあって、地域の活動が多文化共生の社会になったらと期待します。ありがとうございました。

(A 会長)

ありがとうございました。

他にご質問等はございますか。

B委員をお願いします。

(B 委員)

発表ありがとうございました。2点質問をさせていただきます。1点目は成型機が

高額ですが、今回ご提案いただいている4種類以外にも様々なものに使えて今後の発展性という点で、汎用性があるものなのかということをお伺いしたいと思います。

もう一点は、プラスチックのリサイクルの普及、意識向上が目的かと思いますが、本来はそもそもペットボトルを買わないということが大事です。マイボトルを持ち歩くとか、ペットボトルの使用を抑制していくという方向性が最も重要ですので、そういった観点からの取り組みについて何かお考えはありますでしょうか？

(Adachi Plastic Upcycle 長谷川氏)

まず、最初のご質問について汎用性があるかということについてですが、射出成型機は金型を使用して、金型どおりの製品プロダクトを作るものなので金型を変えれば違う形の製品が作れます。そういった意味での汎用性はあります。

次に、プラスチック製品を減らすという観点ですが、確かにそうしていくべきであると思いますが、現状プラスチック製品で溢れています。それらを生活に近くところで再利用していくことによって意識の醸成を図り、最終的にはプラスチックの使用に関して意識を向けていただけたらこの活動が有意義なものになると考えております。

(B 委員)

ありがとうございます。プラスチック製品をリサイクルすればどんどん使っていくというような間違った方向にいかないようにワークショップを行う際には、正しい情報をお伝えいただくように注意していただければと思います。

以上です。

(A 会長)

ありがとうございました。
他にご質問等はございますか。
F委員お願いします。

(F 委員)

ありがとうございます。まず一点目ですが、足立区として今年4月から荒川以南をモデル地区としてプラスチックの分別回収が始まりますが、こういった活動を通じて何かビジョンをお持ちかという点です。

二点目が金型についてですが、4つの金型が4万から10万とありますが、アウトプットの内容が区内園芸店、コーヒーショップということで結構制限されているような印象があります。300万円かけて、何か付加価値をつけるような、例えば足立区内事業者さんに対しこれだけ役に立てるといようなビジョンや企画はありますか？

(Adachi Plastic Upcycle 長谷川氏)

まずプラスチックごみの回収に関してですが、身近なところでできるアップサイクルとしてPPとPEを使用しており、また余計なものが混ざっていないという点でペットボトルのキャップの回収を行っています。そこから、例えばプラスチックのおもちゃを区内の製作会社と金型含めできないかという話を進めています。

二点目ですが、福祉施設との連携や過去にワークショップを行ったことがあるマルイ等でもワークショップを行い、参加者の意識の醸成ができればと考えております。また、プラスチックを扱う業者さんと進めていきたいと考えています。

(A 会長)

ありがとうございました。
他にご質問等はございますか。

E委員お願いします。

(E 委員)

ありがとうございました。今までの取り組みについて信念をもってやってらっしゃると思います。その中で一点お伺いしたいのは、長谷川さん自身色々な目的でやってらっしゃると思いますが、そもそも何故この取り組みをしているのかを教えてください。

(Adachi Plastic Upcycle 長谷川氏)

はい。始めは近所の方と一緒に植物が好きということで集まりました。そこからプラスチックのネームプレートや鉢の製作を自分たちでできないかと考えました。

また、ごみを再生することで地域の役に立つという思いが始まりです。私自身、足立区千住出身で、何か町会の方と一緒に出来たらいい社会になるのではないかという思いがあるのと、福祉施設の方との出会いがあって、私たちの活動が役立ちそうな印象であったので、ぜひ進めていきたいと考えております。そういった思いがモチベーションになっています。

昨年度行った活動では人的コストがすごくかかっていますが、活動を行うことで地域の環境を変えられるのではないかと、少しずつできるところから始めることで自分たちが見てる景色が変わっていく期待もモチベーションになっています。

(E 委員)

ありがとうございます。おそらく費用面でも持ち出しがあると思われます。ただ今回の申請書は、300万円の中で、金型に関して結構コストがかかっています。全体で見たときに、金型があることで今までの活動と大きく変わってくるということですか？

(Adachi Plastic Upcycle 長谷川氏)

今までは押出成形機のみを使用していたので、成形に関しては参加者の技術によるところがありました。また、200度近い熱を利用するので小さいお子さんや高齢の方には危険なため、ワークショップに年齢制限をかける必要がありましたが、射出成型機であれば自動で押出したものをお渡しするのみなので年齢制限を設ける必要がなくなると考えています。

お持ちいただいたごみが製品に生まれ変わったところを見せることで、より普及できると考えます。そのため射出成型機は必要と判断しました。

(A 会長)

ありがとうございました。
他にご質問等はございますか。
D委員お願いします。

(D 委員)

ありがとうございました。
福祉施設の方々もキャップの回収等を行うということでしたが、ワークショップに参加した方の行動変容が重要だと思います。自分もってきたキャップを使ってワークショップを行うこともありましたか？

(Adachi Plastic Upcycle 長谷川氏)

はい。ありました。持ってきていただいたものをその場で粉碎機で粉碎し、粉碎したものをお子さんにアイロン等で成型する体験をしていただきました。

(D 委員)

小学校などでもキャップを集めているところもありますので、是非行動変容につながるような活動をしていただければと思います。

(A 会長)

ありがとうございました。

機材は、ワークショップを行う際になどに持ち運びできるくらいの大きさでしょうか？

(Adachi Plastic Upcycle 長谷川氏)

はい。持ち運び可能です。小学校でワークショップを行う際にも問題なく運べました。

(A 会長)

押出成形機と射出成型機をまとめて運べる大きさでしょうか？

(Adachi Plastic Upcycle 長谷川氏)

はい。イベント等に持っていき、皆様にご紹介できればと考えております。

(A 会長)

できるだけそういった場を設けてください。

また、活動の内容を八重洲珈琲店から切り離してSNSを作られると記載がありますが、現在は珈琲店のインスタのアカウントを利用していますので、足立プラスチックアップサイクルのSNSで発信をしいていただきたいと思います。

(Adachi Plastic Upcycle 長谷川氏)

はい。わかりました。

(A 会長)

他にご質問等はございますか。よろしいでしょうか。長谷川様ありがとうございました。ご退出ください。

<申請者退出>

(A 会長)

続いて、委員の皆様で意見交換をし、そのうえで、評価していただきたいと思います。

【評価については非公開】

(A 会長)

それでは、委員お一人が離席されますので、採択審査の前に事務局から事務連絡をお願いします。

(加藤鉄也 環境政策課長)

はい。今回環境基金の助成部門の新設についてご説明させていただきます。

部門名は、eco U-30 助成（仮）という名称で考えております。こちらの部門の目的は区の課題である若年層の環境意識の向上や、行動変容に繋がる活動を広く募り、取り組みを促進させるということを目的としています。

対象としては、子どもと大人と一緒に参加する取り組みと、若者が主体となって活動するという環境活動を対象としています。

助成金額の上限ですが、ファーストステップ助成の上限20万円に対し、上限30万円としています。学生を対象にしたいということで同一内容で3年間まで申請可能と考えております。ただし、2年目3年目に助成を受ける場合も申請が必要で、申請ごとに審査会の審査を受けていただく必要があります、上限額は、初期費用の減額を鑑み2年目以降は上限20万円と考えております。

審査方法は、ファーストステップ助成と同様書類審査のみとしたいと考えています。

続いてスケジュールです。令和6年度第二期から eco U-30 助成の募集開始と審査をしていただきたいと考えております。

令和7年度からは第一期と第二期で募集部門を分けて進めていきたいと考えております。第一期では、一般助成とファーストステップ助成を募集、第二期では eco U-30 助成とファーストステップ助成の募集をしていきます。理由としては、一般助成で過去採択された大学や団体から活動期間を十分に確保したいという要

望があったことから第一期のみの募集に変更し、eco U-30 助成の募集に関しては、学校やPTA、子どもの支援団体の体制が4月から変わることとを考慮し、第二期のみの募集としております。

以上、環境基金の新部門の設立についてご説明させていただきました。事務局からは以上です。

(A 会長)

ありがとうございます。何かご質問等ありますでしょうか？

(荒井広幸 環境部長)

補足ですが、若い方に環境の考え方を届けたいと考えており、この部門を作ることで、例えば大学等に営業に行くことができるようになります。この内容は4月の産業環境委員会でご報告をさせていただきます予定です。

(A 会長)

ありがとうございます。

大学のサークルでも手を挙げる事ができるということですね。

(荒井広幸 環境部長)

はい。学生が自分たちで何かやってみようとなったところで繋がればと考えております。

(F 委員)

区内在住者に限られますか？

(荒井広幸 環境部長)

区内で活動していただければ、区内在住者に限りません。

(A 会長)

上限30万円ですが、書類審査のみということでしょうか？

(荒井広幸 環境部長)

はい。申請のハードルを下げる意味合いがあります。

(D 委員)

高校生は対象になりますか？

(荒井広幸 環境部長)

対象です。中高連絡会議等ございますので周知していきたいと考えております。

(加藤鉄也 環境政策課長)

子どもを対象とするPTAも対象になります。

(A 会長)

助成をうけた団体の活動報告を直接聞けるような場はありますか？

(事務局)

活動終了に活動報告書は提出していただきます。

(D 委員)

まちづくりトラストでは活動した団体が発表をしているので、そういう機会がほしいところです。

(A 会長)

そうですね。入口のハードルを下げることは必要だと思いますが、助成を受けた活動に関して区民に内容を知ってもらうような発表を行う場がある方がいいように思います。

(E 委員)

すべての団体でなくても、一部の団体でもいいと思うのですが、いい取り組みをされた団体には発表をしていただけるといいと思います。

(A 会長)

今はオンラインでも発表できるのでそういったものを利用するのもいいと思います。

(事務局)

採択された団体にお声がけして、お呼びしたりできればと思います。

(荒井広幸 環境部長)

報告用の動画を作成していただくなども検討します。

(A 会長)

ありがとうございます。

それでは、委員が戻られましたので、採択・不採択を取りまとめます。

受付番号1・足尾銅山の現在を知り、環境活動と地域を考えるは不採択、受付番号2あだち気候区民会議は採択、受付番号3廃棄される野菜の有効活用と、地域住民への周知活動は採択、受付番号4食品寄付とドギーバッグ協力店が表示できる「Messshare (メシェア)」アプリによる産官学 NPO 連携 PR キャンペーンは不採択、受付番号5子ども食堂でSDGsは不採択、受付番号6廃プラスチックのアップサイクルとワークショップは採択となります。

委員の皆様、ありがとうございました。これで本日の審査は終了いたします。

審査結果は、事務局を通じて、区長に答申いたします。答申書については、時間の都合もありますので、会長に一任いただく形で、よろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、私の方で答申書を取りまとめます。最後に委員の皆様から何かございますか。

(D 委員)

今回申請数6件に対して採択件数が3件という結果について、事前の相談の際に事務局からアドバイスをしていただけて審査会に通していただければと思います。

また、活動者の発表などがあると審査する側も参考にできるので、検討していただければと思います。

(E 委員)

今回の審査もですが、旅費と物品につ

いて事務局でもある程度基準を設定して
いただきたいと思います。

(事務局)

考えを整理し、募集要項等の発信の仕
方を検討していきます。

(A 会長)

他ございますでしょうか。

ないようですので、事務局から事務連
絡をお願いします。

(加藤鉄也 環境政策課長)

長時間にわたり、ご審議いただき、あ
りがとうございました。事務局からのお
知らせです。

次回の環境基金審査会ですが、第二期
の申請についての審査会は7月24日の
午後に開催する予定でございます。詳細
は1か月前頃にご案内させていただきま
す。

事務局からは以上です。

(A 会長)

ありがとうございました。

これをもちまして、環境基金審査会を
閉会します。ありがとうございました。

以上